

# 第44期 株主通信

2023年4月1日 ▶ 2024年3月31日



...for patient comfort.



## ごあいさつ



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2024年3月期は一部事業の終了や主要商品の商流変更に伴い大幅な減収を予想しておりましたが、心血管領域の症例数増加や新領域である脳血管・消化器領域の良好な立ち上がりにより売上高はほぼ前期並みとなりました。営業利益は収益性の高い自社製品の好調な販売が販管費の増加を吸収したことから、過去最高益となりました。

2025年3月期は2024年6月からの保険償還価格引下げの影響がある見込みですが、新領域における製品ラインナップの強化や既存領域での競争力のある新製品拡販に注力するとともに資本効率の向上にも取り組むことで、連結業績予想の達成を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 代表取締役社長 鈴木 啓介

により、売上高及び売上総利益は成長する見通しです。特に中核事業であるEP/アブレーションは、自社製品の拡大と前期に上市した大腿静脈用止血デバイスの市場浸透により二桁成長を目指してまいります。さらに、中期経営計画で重点施策としている新領域（脳血管及び消化器）においても、新製品の導入を継続的に進めてまいります。販売費及び一般管理費については、研究開発活動の増加や新基幹システムの稼働に伴い増加を見込みますが、販売数量の

増加でカバーし、営業利益は増益を達成する見通しです。今期は中期経営計画の目標達成に向け、いよいよ飛躍的な成長を始める年と考えております。

なお、配当予想については、中期の株主還元の方針にしたがい、1株当たり46円（前期比4円増配、配当性向40.5%）としております。

### Q 「コア自社製品」に生じている競争への対応を教えてください

A かつて市場でオンリーワンだった心腔内ステントグラフト「FROZENIX」の2つのコア自社製品に、他社が新規に参入いたしました。この状況への対応として、2024年3月期は両製品ともにラインナップの大幅拡充を行い、競争力アップを図りました。今期は、症例数の増加トレンドの波に乗りつつ、新ラインナップの訴求を通じて現状の圧倒的なシェアを引き続き確保することを目指してまいります。当社のコア自社製品は10年以上にわたってパイオニアとしての実績を積み上げてきましたが、その優位性に満足することなく、継続的な投資で強みをさらに磨くことで市場の信頼を盤石にしてまいります。

### Q 大腿静脈用止血デバイスについて詳しく教えてください

A 当社はヘモネティクスジャパン社と大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP（バスケード・エムブイピー）」について独占販売契約を締結し、前期から販売を開始いたしました。このデバイスは、心房細動のアブレーション手術が終了した患者様に対して、体内からカテーテルを抜き取った後の止血に使われます。傷口の閉鎖に体内吸収性のコラーゲンをを用いることで、早期の止血が可能です。従来の傷口を長時間手で圧迫する止血法に比べ、本デバイスは医療従事者と患者様の双方の負担を軽減しますので非常に画期的です。当社としては、本デバイスの早期普及に努め、今後の業績を大きくけん引するドライバーとして育てることに注力してまいります。



大腿静脈用止血デバイス  
「VASCADE MVP」

### Q 2025年3月期の業績の見通しについて教えてください

A 2025年3月期の連結業績予想は、売上高540億円（前期比5.1%増）、営業利益112億円（同2.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益80億円（同6.4%増）と、いずれも過去最高を更新する見通しです。

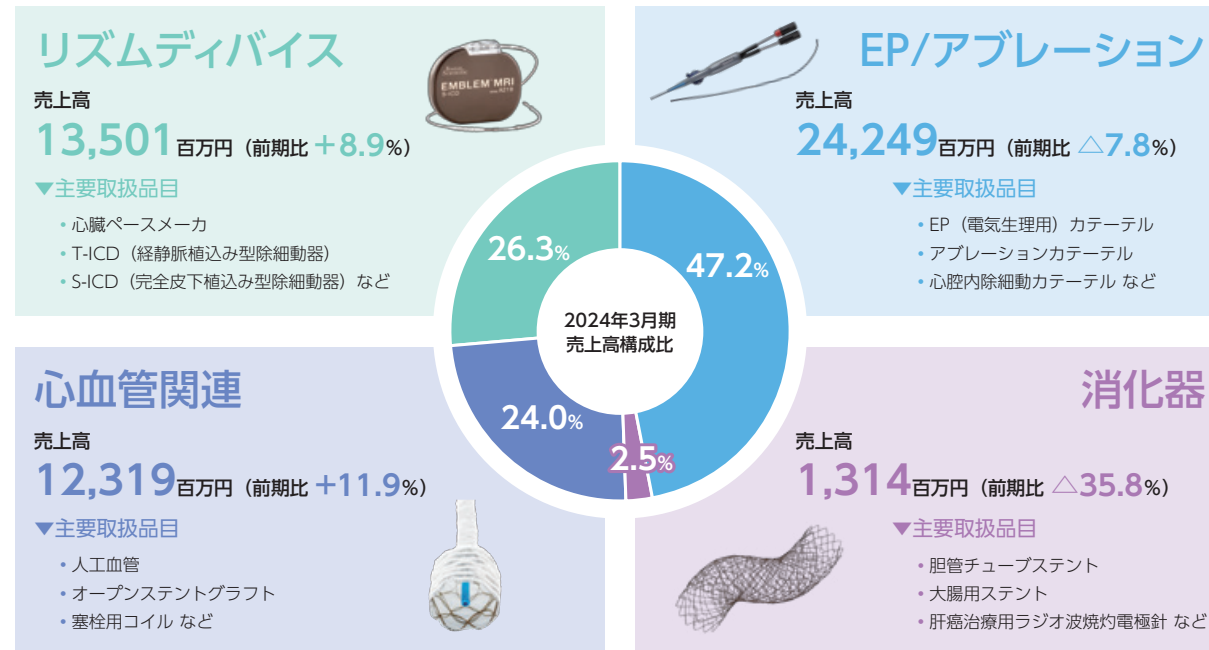
2025年3月期は保険償還価格の改定に伴う販売単価の下落の影響があるものの、症例数の堅調な増加

## 販売ハイライト

### 品目別の販売状況

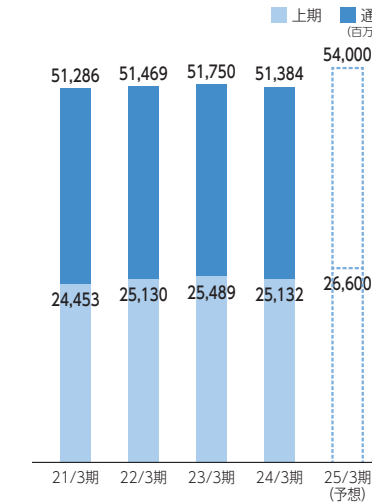
- リズムデバイスは、心臓ペースメーカの旧モデルの自主回収により交換症例が増加したことやオンリーワン商品であるS-ICDの販促\*が奏功したことにより、増収となりました。
- EP/アブレーションは、心房細動のアブレーション治療の症例数増に伴いEPカテーテルの売上高が過去最高を更新したものの、「RF Needle」の商流変更の影響により、減収となりました。
- 心血管関連は、人工血管関連においてオープンスtentグラフトのラインナップを強化したほか、脳血管関連において塞栓用コイルや新発売の血栓吸引カテーテルが好調に推移したことから、大幅な増収となりました。
- 消化器は、消化器関連において今後の成長ドライバーである胆管チューブステントの売上高が過去最高を更新したものの、コロナリー・インターベンション関連の事業終了により、大幅な減収となりました。

\*P5特集ページに詳細について記載しています。

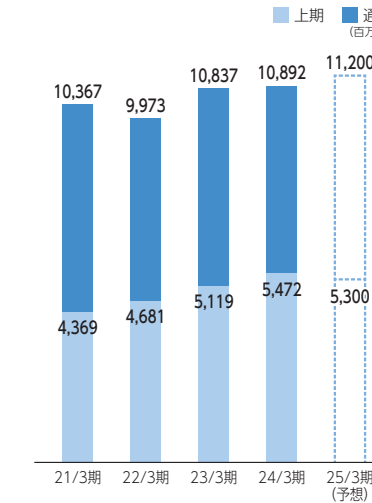


## 主要連結財務データ

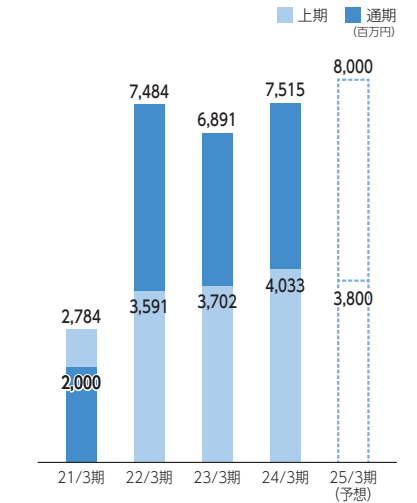
### 売上高



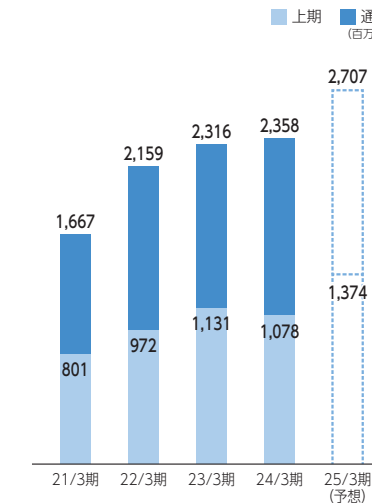
### 営業利益



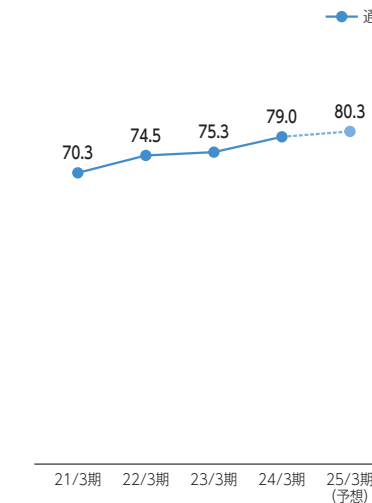
### 親会社株主に帰属する当期純利益



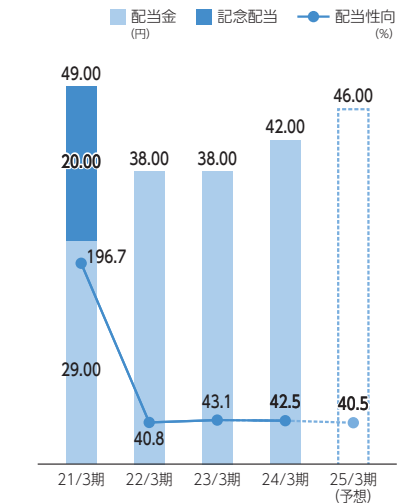
### 研究開発費



### 自己資本比率



### 配当金・配当性向



# 特集 — 心臓突然死から命を救うS-ICD —

## ■ 日本における心臓突然死について

心臓突然死とは、予期せぬ心停止による急死を指します。心室細動などの致死性不整脈に突如見舞われ、心臓が正常に収縮しなくなることで血液を全身に送り出すことができなくなり死に至ります。日本では年間約9万件以上の心臓突然死が報告されており、その数は年々増加傾向にあります。

心臓突然死の原因の一つに、遺伝性の不整脈が挙げられます。遺伝性の不整脈は自覚症状がなく心臓の筋肉や血管にも異常は見られないため、心電図上の所見でのみ診断することができます。遺伝性の不整脈と診断された場合は、突然の心停止による死亡を防ぐため、ICD（植込み型除細動器）の植込み手術が検討されます。

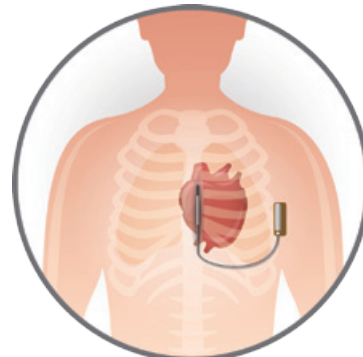
## ■ 致死性不整脈に対する新しい治療の選択肢 ～S-ICD～

ICDは心臓の脈を常に監視し、致死性不整脈を検知した場合は電気ショックを与えることで脈を正常な状態に戻すための治療を行う機器です。ICDの本体は胸の上部に植込まれ、心臓の脈を検知したり、電気ショックを与えたりするためのリード（導線）は血管の中を通して心臓内に留置されます。

S-ICD（Subcutaneous Implantable Cardioverter Defibrillator：完全皮下植込み型除細動器）は、日本では2016年に発売された新しいタイプのICDです。電気ショックを与える機能を持っている点で従来のICDと同様ですが、リードは血管内を通すことなくわきの下から胸骨までの皮下に留置され、心臓内に固定されることはありません。そのため、心臓に与えるダメージを軽減し、感染症のリスクを低減します。また、リードを通すための血管が閉塞している患者様に対しても植込むことが可能です。さらに、本体はわきの下の筋肉の間で固定されるため外見上目立ちにくく、手術に要する時間も従来の2～3時間から約1時間に大幅に短縮されました。このように、S-ICDは患者様にとって様々なメリットがある選択肢です。



S-ICDシステム  
ボストン・サイエンティフィック社製



S-ICDシステム 植込みイメージ

## ■ 患者様に最新最適な医療機器を届けるために

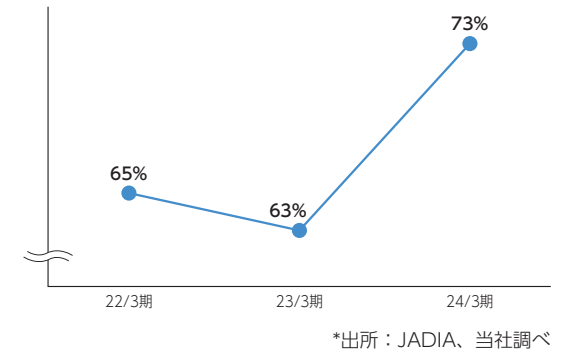
S-ICDは、ボストン・サイエンティフィック社が製造し、当社が国内で独占販売を行うオンリーワン商品です。S-ICDの植込みが適切であると判断された患者様が、その治療を受けられる機会を得やすくすることは当社の責務であると考え、2018年の取り扱い開始以降、当社はS-ICDの取り扱い施設を増加させるための取り組みを行ってきました。

2024年3月期には、医師や臨床工学技士などの医療従事者に対して全国で100回以上のハンズオントレーニングを実施しました。また、医療従事者向け会員制サイトである「JLLプラス」において、S-ICDの特長や植込みが推奨される症例についてのウェブセミナーを開催し、その動画をいつでも視聴できるように掲載しました。

特に、S-ICDは従来のICDと手術方法が大きく異なるため、ハンズオントレーニングの開催に注力しました。ハンズオントレーニングでは、医療従事者の皆様に人体模型を用いて実際の手術と同様の流れを体験してもらい、S-ICDの手術に対する疑問点や不安点を解消し、理解を深めていただくことに努めました。

これらの取り組みが、S-ICDの植込み手術を行う医療機関の着実な増加につながったものと考えています。今後も引き続きS-ICDの普及を図ることで、患者様のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献していきます。

全ICD認定施設のうち  
当社のS-ICDを使用した施設の割合



2023年6月よりオープンしたJLLプラス  
(医療従事者向け会員制サイト)



ハンズオントレーニングの様子



当社は2015年よりAED（自動体外式除細動器）を販売しています。AEDは、心室細動などでいれんしている状態の心臓に電気ショックを与え、心臓を正常な状態に戻すための医療機器です。

昨年、当社の従業員が心肺停止状態の傷病者に迅速で適切な救命活動を行い命を救ったとして、消防署より感謝状が贈られました。業務を通じて心肺蘇生やAEDに関する知識を習得していたことから、躊躇なく救命活動にあたることができました。

このことをきっかけに、再度、全従業員向けに救命講習会を開催し、2024年4月までに304名が参加しました。救命処置に関するインストラクターの資格を持つ従業員から心肺蘇生法とAEDの使用方の説明を受け、マネキンを用いた実技体験を通して知識と技術を習得することにより、いざという時に行動できるようにしています。

## 会社概要 (2024年3月31日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	1981年2月6日
資本金	2,115百万円
従業員数	連結1,216名 単体953名
連結子会社	JLL Malaysia Sdn. Bhd.

## 役員 (2024年6月26日現在)

代表取締役社長	鈴木 啓介	社外取締役	佐々木文裕
代表取締役副社長	鈴木 厚宏	社外取締役	池井 良彰
常務取締役	村瀬 達也	社外取締役	川原奈緒子
常務取締役	山田 健二	取締役 (常勤監査等委員)	高橋 省悟
取締役	高宮 徹	社外取締役 (監査等委員)	中村 勝彦
取締役	出井 正	社外取締役 (監査等委員)	浅利 大造
取締役	干場由美子	社外取締役 (監査等委員)	苅米 裕
取締役	江川 毅芳		
取締役	伊藤 孝志		

## 株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
配当金受領 株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、 9月30日といたします。
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告方法	電子公告 <a href="https://www.jll.co.jp">https://www.jll.co.jp</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他 のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

## 株式に関するお問い合わせ

### 1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

- ▶ 証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様  
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- ▶ 特別口座に記録された株式をお持ちの株主様  
特別口座管理機関にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話：0120-232-711（通話料無料）

### 2. 未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行本支店でのお支払いいたします。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号  
電話 03-6711-5200  
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。